

紙づて

外交官僚のトップとして活躍するマキアヴェッリの給与は月二十ドゥカーティ。欧州で一、二の経済力を有したフィレンツェ共和国の第二書記局長としての俸給だ(ドゥカーティはドゥカート^{ドゥカート}の複数形。一ドゥカート三万七千七百円の試算がある)。イタリア北部の町イーモラに陣を敷くチェーザレ・ボルジアのもとに派遣された時は、五十五ドゥカーティの手当がついた。旅費、必要経費込みだから滞在期間が三カ月にも及ぶと手持ちの金が足りなくなつて、お金を送ってくださいと政府宛ての報告書にたびたび書き添えた。彼は外交使節ではあつても大使の立場ではない。元来、銀行家や金持

マキアヴェッリの苦勞

好 武田

ちの商人が大使や使節になつた。交渉の最前線に送り込まれたのは、その外交手腕を買われてのことだが、高級官吏といえどもサラリーマンなので、やりくりには苦勞する。仮に一ドゥカートを五万円とすると、彼の年収は千三百万円。フィレンツェまでの馬飛脚が一ドゥカート。天候が悪いとその倍。数十通の報告書の送料に従者二人、馬三頭を抱えて七十ドゥカーティの借金をしたと書き記す。同じ時期に、フィレンツェ出身のレオナルド・ダ・ヴィンチがチェーザレ公の軍事技師としてイーモラに滞在していた。マキアヴェッリの報告書には彼が会つたさまざまな人物の名が登場するが、同郷の二人が会つたとの記載はない。

(静岡文化芸術大教授)

2020.4.25

2020.4.25

中日新聞(夕刊) P.1